



安全衛生

あれこれ

1

増田労働衛生コンサルタント事務所

所長 増田稔久



縁あって「名北労基」編集部より安全衛生のあれこれについて、連載記事の依頼をいただきまして。お役に立つ情報を提供出来るのか少々不安ですが、安全衛生は私のライフワーク、お受けすることとしました。先ずは自己紹介です。昭和50年に労働基準監督官に任官。兵庫、長野、

岐阜、愛知の各局と各地の監督署に勤務し、この

### 労働災害の多くは過去に発生した同種災害の繰り返し

間に中央労働災害防止協会へ出向。平成25年に退官後は、日本クレイン協会東海支部で災害防止の業務に従事し、昨年8月コンサルタント事務所を開業し今に至ります。さて、私には行政時代から温めてきたことがあります。それは休日などに調べてきた労働災害の史跡を多くの皆さんにもお知らせしたいとの願い

でした。今も起きている労働災害の多くは、過去に発生した同種災害の繰り返しです。その地に立ち、当時の悲惨な災害を振り返り、防止対策を考へることは意義があると思えます。昨年、その想いを名北協会が叶えて下さり、バスツアーによる研修会を実施しました。各ビールの提供もない研修一途の内容でしたが、快く参加いただいた方や

(詳細は、本誌平成31年1月号をご覧ください) この研修会の下見に際し、珍しい安全対策の事例を見付けました。それは光明寺の「織姫の碑」の近くにある愛宕神社で見かけた石灯籠(写真)で、落下・転倒防止措置が施されていました。措置した理由や効果は不明ですが、ブロック塀の地震対策が進められる中、



愛宕神社の石灯籠(愛知県一宮市)

スタッフの皆さんに感謝しているところです。

灯籠も同様と考えられたのでしよう。見栄えは兎

も角、安全対策に頑張っているなど感心した次第です。

ところで、昨年4月、伊勢神宮周辺の沿道で路線バスのサイドミラーが灯籠に接触して上部の石が落下し、歩行者が死亡する事故が発生しました。また、同10月には群馬県の神社で、灯籠に上って遊んでいた中学生が地上に落ちると共に、灯籠の先端の石が落下し、下敷きになって死亡した事故も起きました。寺社や庭に配置された灯籠はとも風情がありますが、登ったり、ぶつかったり、地震に際しては不安を抱えた構造物と言わざるを得ません。伊勢では先ごろ全ての灯籠が撤去されました。私たち周辺の神社等の灯籠はどうすればよいのでしょうか。①撤去、②柵、③注意表示、考えさせられる写真だと思いませんか。

タイトル・浅井健史